

地域と学校との持続可能な協働体制で、「グローバル」に活躍できる力を育む

大阪府 大阪狭山市教育委員会 教育長 **竹谷好弘**

たけたに・よしひろ 1983年、行政職員として狭山町（現大阪狭山市）に入庁し、教育委員会社会教育課に配属。以降、都市計画課課長、保健福祉部部長、教育部部長、総務部部長を歴任。2019年8月から現職。

小・中学校で育む力のイメージを地域と学校が共有

本市は教育と文化のまちとして、伝統的に教育環境の整備に力を入れています。1973年には当時の狭山町の公立小・中学校で学校給食を開始したほか、「大阪狭山市パチンコ遊技場等及びゲームセンターの建築の規制に関する条例」や「大阪狭山市ラブホテル建築の規制に関する条例」を制定し、青少年の健全育成環境の充実に努めるなど、子育てや教育を支える施策を積極的に行ってきました。

子ども一人ひとりのニーズに合わせた教育も重視しています。その一環として2007年度に、就学前と義務教育期に子どもが受けた支援や検査の記録を保護者に渡し、保護者がそれを上級学校と共有することで、校種間の情報伝達を円滑に行う仕組みを整備しました。それを基に、特別な支援を要する子どもへの適切な支援策を検討し、財政部局と密に連携して、必要な設備などの導入を進めています。さらに近年は、子ども一人ひとりの認知特性の発達に合わせ

た支援を行えるよう、認知特性を測るアセスメントも小学校入学直後に実施しています。

そうしたきめ細かい支援が評価され、「本市の教育を子どもに受けさせたい」と希望して、移住される家庭が少なくありません。全国的に人口減少が進む中で、本市の人口増加率は、2020年の国勢調査において1.11%を記録しました。

本市の教育の羅針盤となるのは、「学びあい、つながりあい、未来に輝く人づくり」を基本理念とした「第2期大阪狭山市教育振興基本計画」（以下、基本計画）です。基本計画では、「これからの社会を生き抜く力を養います」「一人ひとりを大切にする教育を推進します」「持続可能な社会のための教育環境を充実します」「郷土を愛し自ら学び、高めよう学習を推進します」の4つを基本方針に掲げました。それらの実現には、地域と学校がより具体的なイメージを共有し、手を取り合いながら取り組む必要があると考えています。

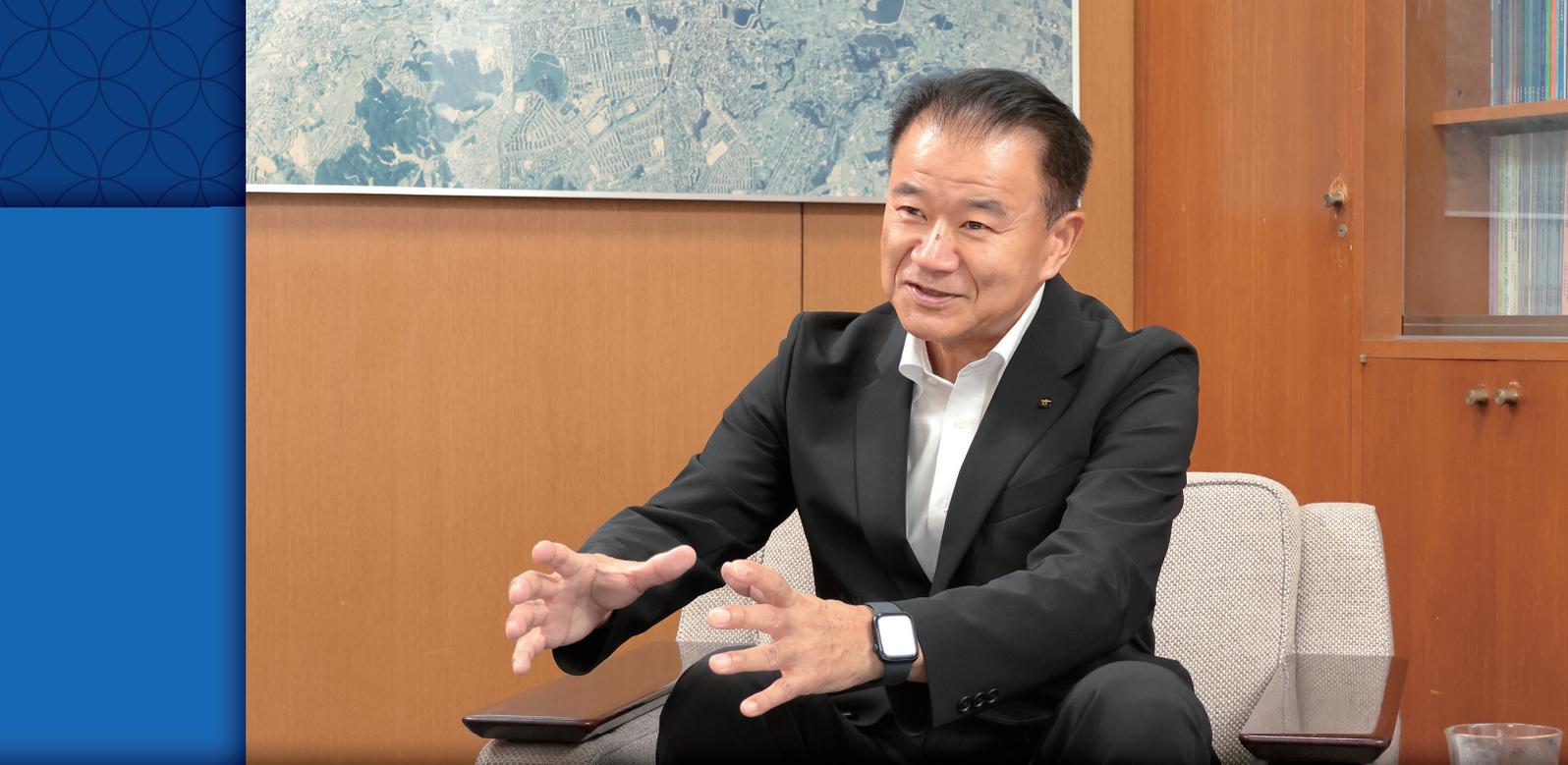
そこで2023年度は、4つの基本方針を横断する教育の方向性を「グローバル人材の育成～地域とともに進め

る学校づくり～」と決めました。そのゴールイメージは、小学校は「本市のよいところや課題を考えて表現できる力」を、中学校は「それを英語でスピーチしたり、1人1台端末を活用して海外などに発信したりすることができる力」を育むことです。私は教育長として、様々な機会を通してそのイメージを提示し、地域学習の充実と英語力の向上を始めとする、グローバル人材を育成する教育活動の重要性を伝えています。

英語教育や体験学習などが地域の支援でより豊かな学びに

本市の強みは、何よりも地域と学校とのつながりです。例えば本市には、「大阪狭山小学校英語活動支援の会」というNPO法人があり、元教員や英語を活用する仕事に就いていた人などが小学校の英語活動や英語の授業に入り、担任を支援しています。

同団体は、小学校に英語活動が導入された当時、「先生方の手助けをしたい」と地域の有志が自主的に立ち上げました。その動きが地域全体に



広がり、多い時には30人ほどが在籍し、現在に至るまで全市立小学校7校の英語教育を支えています。

また、15年以上前には、市からの地域への呼びかけをきっかけに、地域住民が自分の得意分野を登録する人材バンクもスタートしました。その仕組みは多くの地域住民から賛同を得て、多様なスキルを持つ人材が、部活動の指導や理科の実験準備、絵本の読み聞かせ、書道の授業の支援などで、教育活動を支えています。

校外活動でも、地域社会は子どもにとって有益な学びの場となっています。例えば、農家の協力の下、小学校の近隣にある水田で児童が米作りを行うなど、地域での体験活動の幅が広がっています。本市の伝統行事である「狭山池まつり」や「だんじり祭り」にも、小・中学生が準備段階から参加しています。子どもが多様な世代とかかわり、認められて、時には失敗したり、保護者以外の大人から

叱られたりすることもよい経験となり、豊かな学びが展開されています。

地域の活動に子どもの参加を促すことで、保護者も地域社会に積極的にかかわるようになり、地域コミュニティに一体感が育まれるといった好影響が生まれています。

本市はかねてより、校種間連携も重視しています。近隣の府立高校や大学と連携協定を結んでいるほか、保育所・幼稚園・小学校・中学校の管理職が集まる総会では、民間の保育所や幼稚園にも声をかけて交流しています。本市の子どもの育ちを支える教育関係者が公立・私立の隔てなく協働して、教育の方向性を共有することが重要だと考えています。

コミュニティ・スクールの充実で 持続可能な協働体制を確立

本市の特徴である地域一体となっ

た教育活動は、「地域全体で子どもを育てたい」という人々の思いから、いわば自然に生まれ、発展してきました。今後、その仕組みを持続可能な協働体制にしていくために重視しているのが、コミュニティ・スクール（以下、CS）です。基本計画に基づき、2024年度までに全市立小学校7校をCSとする体制を進めており、2023年度時点で5校への導入が完了しています。今後、CSを学びの基盤の1つとし、子どもがそれぞれの特性を生かして学び合い、つながり合う協働学習コミュニティの形成を目指していきます。

学校が教育のすべてを担うのではなく、地域の様々な機関・団体と助け合うことは、子どもの学びを大きく広げ、確かな成長を支える教育活動の継続につながると考えています。地域と学校の協力の下、これまで以上に豊かな教育をつくり上げていきます。

大阪府大阪狭山市 プロフィール

◎大阪府南東部に位置し、大阪市などのベッドタウンとして発展。日本最古のため池である「狭山池」が市域の1割を占める。伝統的に子育てや教育にかかわる施策に注力。地域との協働や校種間連携を重視して、英語力や国際感覚を備え、地域に貢献できるリーダーの育成を推進している。 **人口** 約5万8,000人 **面積** 11.92km² **市立学校数** 小学校7校、中学校3校 **教員数** 347人 **児童生徒数** 4,752人 **電話** 072-366-0011 (代表)